

KTK ひゅうまん 京都

No 512 2019年7月号

編集/京都障害児者の生活と権利を守る連絡会 〒603-8324 京都市北区北野紅梅町85 弥生マンション内
編集発行責任者/池添 素 電話&FAX(075)465-4310 購読料 1部80円 年間購読料1,000円(送料実費)

- P 1 左大文字 つどめ
- P 2 常任委員会から 池添 素
- P 3 私が本当に望む生活とは… 大西里江
- P 4 車いす視点から社会を斬る 78 矢吹文敏
- P 5 聴覚障害者は訴える 27 篠田あゆみ
- P 6 車いす裁判の争点 浅井 亮
- P 7 2+2=詩 赤富士文兼
- P 8 尊厳ある暮らしの保障 中野 加奈子
- P 9 背中を伸ばしてひとと一緒に歩む 53 すぎな
- P 10 視覚障害者のサークルめぐり 91 一谷 孝
- P 11 知っ得情報 松本 美津男
- P 12 ありがとうございます・催し案内

左大文字

「男性介護者をどう支援するか」。私たちが立ち上げた男性介護者のネットワークへの問いがいまも続いている▲介護支援の困難事例として介護する息子や夫が語られることが多いが、これは次に記すような男性の介護スタイルに起因すると考えられる。責任感が強く弱音をはかずに一人で介護を抱え込む、という、家族主義(Familism)と男らしさ(Masculinity)が深く刻印された介護スタイルだ▲孤立や介護事件の温床とも指摘されるものだが、ただ、支援において留意したいのは男性介護者といっても一枚岩ではないということだ。とだしい。世代(年齢層)や続柄(夫・息子)、生活(有業・無業)等によって随分と異なる様相を醸しているからだ▲ステレオタイプの理解と対応ではなく、家族主義と男らしさに配慮しつつ、その訴えにじっくり耳を傾け信頼関係をつくっていくことが支援の第一歩ではないか。一般的な個別対応だけでなく、オープンなグループワークも取り入れた支援の開発が必要ではないか。「ひとりじゃない!」ことを実感する男性介護者同士の会や集いというケア・コミュニティを介しての関係づくりも有効ではないか。と、ネットワークで聞いてきた男性介護者の声を伝えている▲支援者↓介護者という直線的支援を、支援者⇓介護者⇓ケア・コミュニティという双方向性と当事者性を組み込んだ支援の開発課題だ。

つどめ



「夢・花火」
渡辺あふる

常任委員会から

〈国は控訴を断念したけれど〉

友人の和田三郎さんの叔父さんは元ハンセン病患者、その奥様は今回の熊本での家族の保障を求めた裁判の原告。今回の勝訴判決を喜ぶとともに、控訴は断念したけれど、安倍政権のお粗末な対応の実態を教えてくださいました。

「熊本地裁の判決が出た日、奥さんなどが原告になっていましたので、元ハンセン病患者の叔父さんに電話をしました。安倍首相は参議院選挙中だったので控訴できなかったただけでなく「よくできた演出」で選挙に利用しています。それにしても一人当たり、550万円の賠償保障と謝罪の請求に対し、原告一人当たり一律30万円、療養所入

所者の配偶者と子どもにも100万円とはあまりにも少ないのではないのでしょうか。おじさんや

家族の長年の苦労を聞いているだけにそう思います。そのうえ、正式な謝罪もないのです。」と怒り心頭です。

〈三年前を思い出して〉

早朝に流れたテレビの画面のニュース速報は衝撃でした。相

模原市にある障害者入所施設やまゆり園で、19人の障害のある人が元職員によって殺傷されたという内容でした。被害を受けた障害者の人数は発表されても、氏名は伏せられた報道。「生きていても意味のない人たちを殺した」と加害者の弁が報道され、神奈川県から遠く離れた京都でも、私の周りの障害のある子どもを施設に預けている親は

生きていくかの確認を施設に行ったり、外出していると周りの視線が刺さると感じた障害者の声も聴きました。みんな我がごとととらえ、この社会の障害者を排除する思想が思いのほか強力であることを実感しました。そして、生きていてもよい命の価値は平等であることや、人間の存在する価値を誰かが決められるものか、命を奪う権利があるのかとの思いを強く、再確認する事件でした。もっと声をあげなければ殺されてしまう、人間の生きる価値は障害のあるなしにかかわらず同じと、胸張って言える当事者や家族をたくさんつくることしかないのではないだろうか。一人ひとりが自信をもって生きることが難しくなっている。加害者の植松被告も自分への自信が揺らぎ、どこかに我がごとの存在を社会に間違った形で問いたかったのではないだろうか。重い事件、

そして今も問いかけは続いている。2

〈連載はいかがですか〉

『ひゅうまん京都』の強みは多彩な連載です。障害分野を超えて、文字で現状や課題をリアルに表現している連載が満載です。今回3回連続で大西さんのお話を掲載しました。今回で最終です。しかし、大西さんの話はこれだけではすみません。子どもさんが小さい時から、家族が元気だったころから、考えてきたこと、苦しんできたこと、悩んできたこと、助けられてきたこと、1月からの連載で書き綴ってほしいとお願いし、快諾してもらいました。

池添素（京障連事務局長）



私が本当に望む生活とは・

2018年8月29日、京都社会保障推進協議会はラポール京都で「私たちが望む地域（共生）社会を考えるフォーラム」を開催して、障害福祉施設や介護施設、依存症リハビリ施設、弁護士、学者、当事者の家族などさまざまな角度から、「共生社会」とは何か、政府の進めようとしている「共生社会」で本当にみんなが幸せになれるのかを考えました。この集会における大西里江さんの発言です。

(文責・編集部)

④ これからも続く転院

今、自宅近くの病院で過ごしている主人は、本人の意思や希望に反し、病院から病院へと転々と繰り返し、帰宅も無理となります。長年、病院から病院へと転々と繰り返し続けた生活をやめることが娘にとつて生活になりました。一度重症になって良くないことです。

と医療行為も多くなり、施設入所 どうすればいいのか、悩んでなや
は出来ず、入院は医療機関です。病んで、主人に話をしました。「お父さ
院から次の病院のお話が出ると、主人なので、この生活でもいいです
人場合はケースワーカーさん、ソカ」。本人の望む生活ではありません
ーシャルワーカーさんと相談して決ん。でも、自宅近くの病院なので週
めていくこととなります。病院によ 2、3回は見に行けますし、頑張っ
って3か月から1年という間、決めてほしいと思っています。これが正
られた期間を転々と移動する生活で 解という答えはありません。

す。定住することが一番安心出来る 私は、常に最も弱いといわれる方
生活とと思うのですが、在院以外今は 心出来る社会と思っています。最も
ありません。

私自身、在宅することも考えてい 弱い者から切り捨てていく社会、現
ました。しかし、娘も同じ病で、重 実に、相手の立場に立ってない世の中
度障害者で、週末は自宅で過ごして に怖さを感じています。弱者を守れ
います。主人同様医療行為も多いで る生活、本人が望む生活が出来ること
す。娘の帰宅をやめれば、主人の在 とが本当に安心出来る社会と思いま
宅生活は可能です。それは、娘が体 す。今はただ、この現実に精一杯出
調を崩す可能性が大きくなると覚悟 来ることをやるしかないと思ってい
が必要になります。長年、娘も週末 ます。

帰宅する生活をしています。主人同

(終わり)



車いす視点から社会を斬る!

矢吹 文敏 (日本自立生活センター)

ネーミングと思想

前号の最後に少しだけ触れたのだが、ワールドカップのような国際試合でわが国の選手がチームを組んだ時、いつの頃からか、野球男子の場合には「侍(まむらゐ)ジャパン」、女子サッカーの場合には「撫子(なでしこ)ジャパン」と名けているのだが、なぜなのだろうか。

別々にチーム名というのは愛称なのだから、特にこだわって気にする必要もないのだろうが、やはり素直に受け取れない。ウィキペディアによれば、「侍」とは、武力をもって主君に使えらる者の総称とある。上層の武士。幕府では御目見え以上に、大名では中・小姓以上の武士に対して「侍」の呼称が与えられた。のちには武力にすぐれた地方武

士を近侍の役に採用するようになり、武士を意味することになった。また、「昔、貴人の身辺を護衛した上級武士」などと説明されている。

が、愛称を名付ける時にこんな難しいことを考えるのかどうかは疑問だ。名付け親が誰かは知らないが、何か「侍」に対する願望や期待があったに違いない。

しかも日本人の奥底に沈む、例えば「殿の命令ならば如何様にも」とか「負けて帰って来なさい! 負けは恥!」「切腹でない! 負けは恥!」「切腹だ!」と言うような尊宅入り乱れた誤った美意識を期待しているのではないか。もちろん「なでしこ」も同じだ。と言うよりももつと露骨かも知れない。それは「ナデシコの花言葉は

純愛・無邪気・純粋な愛・いつも愛して・思慕・貞節・お見舞・

康」とか「長寿」を象徴する名称が乱立する。

☆

女性の美など女性的なイメージが強いが、才能・大胆・快活なナデシコの花言葉は、可憐・貞節である」と言うのだ。

私たちは、インターネットやテレビや新聞などのマスメディアが一方的に造り出し送り込んでくるニュースやコマーションを通して、言葉の洪水の中で生きていく。それは同時に、私たちが日常的に(思想に裏付けられた)言葉の洗脳を受けていることを意味する。

つまり、私たち一般の国民は、優勝カップを持って帰ってこい」と言いながら「大胆で快活な女性」と「無邪気で貞節な女性」を求めているのだ。

「安楽死の容認」を訴え、権力者に都合の良い憲法に変えようとする人間が立候補して、障害者は役に立たないと真剣に考える人たちが未だにたくさんいるという事実。

「たかがチームの愛称だ。それはお前の考え過ぎだ!」と叱りを受けるかも知れない。

しかし、私は、このネーミングと思想と言うのは実に明確に結びついていると思っている。

例えば、障害者関係の福祉施設や作業所の名称は花や植物の名前であり、それは同時に幼稚園や保育園と言った子どもの世界と同じような名称である。さらに高齢者施設の名称にも、「健

運動をしてきて、さぞかし世の中は良く変わっているだろうと思いきや、昔からの刷り込みは抜けていないことに愕然とする。

それは「ナデシコの花言葉は

純愛・無邪気・純粋な愛・いつも愛して・思慕・貞節・お見舞・女性の美など女性的なイメージが強いが、才能・大胆・快活なナデシコの花言葉は、可憐・貞節である」と言うのだ。

聴覚障害者は訴える

2019年10月6日(日) 京都テルサで第66回近畿ろうあ者大会が開催されます。

近畿各地からろうあ者、手話関係者の約200名が集い、昨年度総括報告、本年度活動方針や計画の案を採決し、「その目標に向けて共に頑張ろう！」と声を掛け合う。そして午後からはアトラクション企画・福引・バザー等を楽しみながら交流する年に1回の近畿範囲での大会です。兵庫、大阪、奈良、和歌山、滋賀、そして京都と会場もちまわりで開催することになっており、今年は、京都です。私もこの実行委員会に携わって2度目となります。

1回目は、6年前に開催しました戦場カメラマンの渡部陽一さんに「平和とは何か」とテーマで講演をいただきました。テレビと同

じように、物腰のひくい姿勢でゆっくりとした口調で、時々横にいた手話通訳者に気遣いながら語りました。その中で、印象に残ったことがありました。質疑コーナーがあり、耳が聴こえず十分な教育を受けられなかったために言葉の獲得が少なく会話力が乏しい60代のろうあ者が質問しました。彼を知る通訳者やまわりは騒然とし、何を言

い出すのやら？と不安。彼は舞台に上がり、渡辺さんに話しかけました。彼は、一生懸命に手話と身振り手振り表現をまじえて質問しました。通訳者は彼が何を言っているのか読み取れなかったのですが、なんと、渡部さんは、彼の質問にきちんとお答えできたのです。彼は通じたことがうれしくて喜色満面なお

顔でした。渡部さんは、独特な構えで彼の顔の表情、全身の動きを上から下まで観察し、彼の手話を読み取る通訳者の声を聞きながら統合的に質問の内容をつかんだのでしようか。海外でも言葉が通じなくても、相手の身振り手振り表現、ジェスチャー、顔の表情、まわりの背景、全体の雰囲気あらゆる情報を集めて分析し非言語的なコミュニケーションを図っておられるのでしょうか。渡部さん自身も聴こえない人と触れあつた経験を通して、今も世界中のどこかで障害児・者の権利と生活を動していると思います。

さて、今年、『LGBTのこゝろ』として人権、誰もかも生きやすい社会へ』をテーマとした記念講演に、なんもり法律事務所の南和行弁護士さんに講師をしていただく企画です。同性愛を公言するカップル弁護士、弁護士夫(ふうふ)です。メディアでも

多くの出演、映画製作、ブログなど幅広く活動されています。ろうあ者の中にもLGBTの方がたくさんいること、司法関連に係る情報保障にも課題があることを、南さんに知っていただく機会です。

2018年に京都府が条例を制定した『言語として手話の普及を進めるとともに聞こえに障害のある人となない人とが支え合う社会づくり条例』に沿い、今年の近畿ろうあ者大会と一緒に参加して、記念講演をきいて学び合いませんか。

「障害の有無やその程度にかかわらず全ての人が互いに支え合う共生社会の実現を図るため、言語としての手話の普及をしよう！」

篠田 あゆみ
(京都府聴覚障害者協会理事)

車いす裁判の争点

弁護士 浅井亮

車いす裁判も原告準備書面は申立て自体出来ないはずなの20通を超え、主張が出そろいつつあります。今回、原告側で争点整理の上申書を提出しましたので、それに沿ってこの裁判の主たる争点をお伝えします。

1 訴えの利益について

被告である京都市は、ジョナさんの特例補装具の申請は、決定を出す前にリフト機能を取りやめる変更がなされており、その変更に沿った決定をしているので訴えの利益がないという主張をしています。

しかし、私たちはジョナさんから変更申請書などは出されておらず、そのような事実自体がないと争っています。また、仮に変更がなされて申請が満額認められていたのであれば、不服

2 リフト機能の必要性について

リフト機能のような特例補装具については、「真にやむを得ない事情」がないと支給できないとされていますが、この事情について将来の事情を考慮すべきかということが争点となっています。私たちは、ジョナさんが学生時代に申請されているもの、卒業後社会人になった場合の、卒業後社会人になった場合についても考慮すべきであると主張しています。

また、リフト機能が医学的見地から見て必要かということも

問題となっています。これについては、ジョナさんの身体機能の補完をするという意味において医学的必要性があると主張しています。

次に、学業上・職業上の必要性があるかとの問題について、私たちはリフト機能が描画において対象を立体的にとらえるために必要と主張していますが、京都市は質の高い描画を行うことは「真にやむを得ない」に該当しないと主張しています。

日常生活・社会生活上の必要性があるのかとの問題について、私たちはATMの操作などにおいてリフト機能が必要と主張していますが、京都市はジョナさん特有の問題ではないから「真にやむを得ない」ではないとしています。

3 頭頸部加算ないしネックサポート金具加算の必要性について

私たちが頭部の重みを支える

ためにヘッドサポートとは別にネックサポート金具加算が必要であるとの主張をしているのに対し、京都市はヘッドサポートのみで足りると反論しています。

また、京都市はヘッドサポートとして支給した金額が厚労省基準よりも高額であり、私たちが求めている金額は高額すぎるとしていますが、必要な補装具については金額に関わりなく支給すべきであると反論しています。

4 最後に

以上が主要な争点ですが、これらの主張を裏付けるための証拠調べの方針も提出しています。いよいよ裁判も佳境に差し掛かっています。



2+2=詩

「七夕の天気」

七夕の夜の天気なんて僕はどうでもいいから。
晴れているのかどうかなんて、わざわざ空を見上げない。

七夕の夜に雨が降ろうと雲の上には関係ないから、
彦星も織姫も空を見上げたりは気にしないだろう。

七夕の夜の天気を気にする誰かが吊したのでろう、
てるてる坊主だけが真剣な顔でじつと空を見上げていた。

「雛鳥」

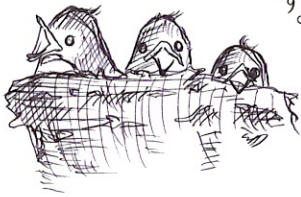
燕の巣を見るその度に、鳴いてる雛鳥見る度に。
昔のことを思い出す。

巣から落っこち死んでいた裸の雛鳥思い出す。

そうして思い出すその度に、
胸がなんだか苦しくなる。

だからどうか、全ての雛たち。
元気に育って巣立っておくれ。

燕の巣を見るその度に、
そんなことを願ってる。



「毛虫」

木の枝の上をひよいひよいと毛虫が一匹歩いている。
毛むくじやらの体を縮めて伸ばしてどこかに向かって進んでる。

ふとそれかけた道行きを、動いた木の葉が遮った。

危なく踏み外しかけた足元を、風が吹いて押し戻した。

脱線注意、脱線注意。

そんな言葉を知ってか知らずか。

はらはらと見守るこちらの気持ちなど知る由もないか。

いつか飛び立つその日まで、

毛虫は変わらず歩き続けるのだろう。

「睡眠」

あんまり眠気がひどいから、布団を敷いて寝転がる。

まだ昼間だぞ、明るいぞ。

眠らない眠らない。休むだけ。

そんな言い訳をしているうちに、

眠気はどんどん増えていき、僕の中を満たしていく。

そうして眠気が溜まるにつけて、僕の体が溶けていく。

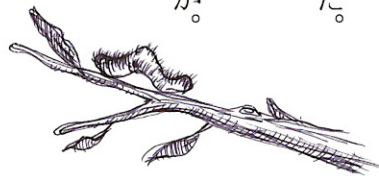
溶けた。溶けた。溶ける。溶ける。

寝転がる僕の体は溶けて輪郭をなくして、

布団の上に広がっていく。

眠る僕の心も溶けてあやふやになって、

夢の世界に広がっていく。



尊厳ある暮らしの保障

—生活保護制度のイロハと明日

中野加奈子（大谷大学准教授）

(7) いのちのとりで裁判全国
アクションと全国原告交流集会

6月1日～2日に、第二回いのちのとりで裁判全国アクションのちのとりで裁判全国アクションのちのとりで裁判全国アクション原告交流合宿が大阪で行われました。これは、生活保護基準引き下げに反対する全国各地の裁判をつなぐ「いのちのとりで裁判全国アクション」が、全国の原告・支援者の交流やサポートを目的に開催したものです。

この合宿では、日頃顔をあわすこと少ない全国の原告や支援者が、各地での活動の様子を報告し合い交流することや裁判への思いを語り合い仲間を増やしていくことを目的にしています。

第10回目となった6月の合宿では、京都からも原告・支援者合わせて約40人が参加しまし

利用していることは周囲の人に言えない。親戚づきあいもできなくなってしまう」といった悲痛な声が上がりました。

もう一方では、「バッシングが怖かったけれど勇気を出してテレビの取材に応じた。すると、近所の方から「応援しているよ」と言ってもらえた。仲間がいると思うと強くなれた」という声や、「日頃は自分の気持ちに蓋をしているけれども、ここならばありのままの話を聞いてもらえる。裁判ではいろんな人たちに支援してもらって嬉しい。支援者の皆さんは「もつと頑張らねば」とも言ってくたさる。でも、私たちは、自分の声を出すことすらできない状況が長かった。だから今、とにかく私たちの話を聞いてもらえただけでも嬉しい。とにかく私たちの声を聞いてほしい」と話された方もおられました。

そもそも、生活保護は健康で文化的な生活が維持でき、奪われた声を取り戻し、自分の人生をより豊かに歩み出せるようにするものです。こうした制度の意義を、裁判を通して取り戻したいと思います。

次回は、(8) 漫画やドラマで登場した「生活保護制度」 漫画・ドラマで取り上げられた生活保護制度の様子

「恥」 利用していることは「恥」 利用していることは「恥」 利用していることは「恥」

視覚障害者の サークルめぐり(91) クラブ員の思い

民謡サロンは、毎月第1水曜日午後京都ライトハウス音楽室で活動しています。

執筆者は、京都市の中央市場近くの株式会社カネカ蒲鉾に30年間、管理職として働いておられました。還暦を迎えた60歳頃に失明され、京都ライトハウスで生活訓練を受けて社会生活ができるようになりました。現在は、民謡・点字・ハーモニカをたしなんでおられます。

民謡が私の生活を エンジョイします

(東江義一)

私が民謡サロンのことを知ったきっかけは、鳥居寮通所の仲間からの情報でした。退職して打ち込める対象をなくした私に対して、友人たちはひきこもりにならないようにと民謡を勧めてくれ

ました。そして、ちょうどその時期に興味を持ったのは民謡でした。歌謡曲でも演歌でもフォークソングでもない民謡というジャンル、テレビやラジオから流れてくる、その独特の魅力ある音楽に強く心を打たれました。それが、「音痴でリズム感もない私が、民謡サロンという未知の世界に飛びこむことに決めた理由です。

初めての民謡サロンの日、音楽

室に入ると賑やかに談笑されている声や聞こえ、心は少し穏やかになりました。というのも束の間、生演奏で民謡を唄うことを知らされ、不安に駆られました。しかも、指導者は「からたけ民謡会」の白坂先生と三味線の藤村先生で、お二人ともとても素晴らしい声や演奏を私たちに聴かせてくださいます。しかし、サロンのメンバー紹介で、十二、三人ほどの参加者の皆さんが音痴で音程のとれない私でも快く歓迎してくださいました。運営委員の本

去られました。

われます。もうその頃には、音楽室は宴会場に迷い込んだような雰囲気になり、手拍子あり相槌ありで、拍手喝采や爆笑に包まれます。

次は、新しい曲を白坂先生の独唱で聴き、覚えます。一番は何回も繰り返し返し、また一フレーズの中も細かく分けて教えてくださいます。伴奏される尺八や三味線の音色とともに浸透していきます。数多くの曲を唄えるようになりたくります。

活動の最初には、今までに習った曲を五、六曲唄います。サロン ボランティアである森さんが歌詞コールをしてくださいますから、何とか口ずさむことができました。中には、勤め先の酒宴で行儀悪く、茶碗や小鉢を箸で叩きながら聴いた覚えのある曲もありました。「祇園小唄」、「炭坑節」、「花笠音頭」があり、一安心。

続いてメンバーの独唱に入り、各自の持ち歌や習いかけの歌を披露します。優しい歌、賑やかな歌、旅情たっぷりの歌を思い思いに唄



民謡を唄うことは、腹式呼吸の助けをしたり、頭の体操・ストレッチ解消にもなると思います。日本の古い生活や伝統的なしきたり、行事などを知るとともに、地方のお国訛りや時代の生き様を詞にしているのが民謡のおもしろいところです。民謡サロンは、談笑の絶えない、しかも意義のある愉快的な文化活動です。皆さまのご参加をお待ちしています。

知っ得情報

親が重度障害者なら

一人親でなくても貸付

松本 美津男

母子父子寡婦福祉資金貸付制度というものがあります。この制度は一人親でなくても父か母が重度障害者であれば貸付対象になります。

利子は貸付金の種類によりますが連帯保証人の有無によって異なります。無利子または、年利1%ですので、比較的低利と言えるでしょう。

決定まで時間がかかりますから、希望する場合、申請はお早めに。

〈貸付金の種類〉 ①事業開始資金 ②事業継続資金 ③修学資金

④技能資金 ⑤修業資金 ⑥就職支度資金 ⑦医療介護資金

⑧生活資金 ⑨住宅資金 ⑩転宅 ⑪就学支度資金 ⑫結婚資金。

〈償還方法〉貸付金の種類によって異なるが、一定の据え置き期間の後、3年～20年

〈問合せ〉

京都市一居住地の区役所・支所保健福祉センター子どもはぐくみ室（子育て推進担当）（京北地域の人は京北出張所保健福祉第一担当）
京都市以外一居住地の「京都府保健所」母子・父子自立支援員

あなたもぜひ 仲間に



サロン・サークル・地域活動展開中
生活支援スタッフ(資格不要)募集中
介護職員(資格要)募集中

ひとりぼっちの高齢者をなくそう
元気な高齢者はもっと元気に

「よろず相談」承ります(随時)



あなたも支える存在に

京都市北区紫野東野町1-5
電話075-432-3636

命の平等をかけた、 無差別平等の医療と 福祉の実現をめざす

働くひとびとの医療機関です

看護師・薬剤師・医師や医療技術者を

目指す方をご紹介ください



京都民主医療機関連合会

〒615-0004 京都市右京区西院下花田町21-3 春日ビル4階

TEL 075-314-5011(代) FAX 075-314-5017

Home Page <http://www.kyoto-min-iren.org>

e-mail: info@kyoto-min-iren.org

ありがとうございます

■**分担金** 京都民主医療機関連合会・京都府聴覚障害者協会・京都府視覚障害者協会・京都府立高等学校教職員組合・京都府職員労働組合連合・北部障害者問題連絡会・京都自治労連・京都市職員労働組合(敬略 2019/7/17)

■相模原殺傷事件から3年—なにが問題か？あなたは どうする？

日時：7月26日(金) 13:30~16:30 (13:15 開場)

場所：ひと・まち交流館京都ホール(河原町正面)

内容：ミニ講演「相模原殺傷事件が問いかけるもの」隅河内司さん(元相模原市職員、田園調布学園大学教授)、発言、ミニライブ。映画『夜明け前—呉秀三と精神障害者の100年』(66分、2018年)

参加：参加自由・無料・手話通訳あり。

問合せ：<相模原殺傷事件から3年—なにが問題か？あなたは どうする？>実行委員会(465-5451)

■平和のための京都の戦争展

日時：7月29日(月)~8月4日(日)

場所：立命館大学国際平和ミュージアム

内容：戦争反対 ころころから訴えます 君につたえる 君がつたえる メイン企画「高石ともやフオークフェスタ」(8月4日11時~13時)

問合せ：231-3149(機関紙協会)

■木琴 ヴァイオリン チェロ ピアノによる夏を彩る名曲コレクション

日時：8月3日(土) 14時~(開場13:30)

場所：京都アスニー4階ホール

内容：通崎睦美(木琴)、佐竹裕介(ピアノ)、東珠子(ヴァイオリン)、佐藤響(チェロ)の演奏

入場料：820円(小・中学生510円)

問合せ：812-7222(京都アスニー)

■壊憲ダメ！ 松元ヒロライブ

日時：8月18日(日) 午後2時~4時(開場1時)

場所：福祉広場1階ホール(白梅町交差点北へ2筋、西入ル50m)

内容：ドキュメンタリー映画『誰がために憲法はある』で、俳優・渡辺美佐子が演じる一人芝居「憲法くん」がポピュラーになりました(「私の姓は日本国、名前は憲法です。最近、変なうわさを耳にしたんですが。私がリストラ(改憲)される。…」という独白)。ヒロが演じる「憲法くん」は、憲法前文や9条の条文を暗唱しつつ、「人間ならば70代はまだまだ現役。もっと日本のために働きたい。だから、どうかもっと自分(憲法)について知ってみて、考えてみてほしい」と訴えます。披露する芸は多彩、その至芸を目の前で愉しめます。戦前へと回帰しようとする安倍政権の矛盾や理不尽を笑いのためして斬ります。 木戸銭：1000円

問合せ：実行委(465-5451)

■2019 京都ピースライブ

日時：8月31日(土)13時~(12時半開場)

場所：京都教育文化センターホール

内容：松元ヒロ、高石ともや、ジュスカ・グランペール、川口真由美、雑花塾などのパフォーマンス

入場料：3500円(前売り3000円)、障害者・高校生1500円 問合せ：2019 京都ピースライブ実行委 090-7363-6015)

■放課後デイサービスの実践を豊かに

日時：9月29日(日) 13:30~16:00

場所：京都教育大学A1講義室 内容：講義「選ぶ力・決める力・待つ力を育てるために」池添素さん(福祉広場理事長)・実践報告など 資料代500円

問合せ：644-8206(丸山)